

岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

2017年第41週 $(10/9 \sim 10/15)$

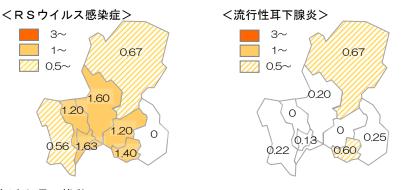
平成29年10月20日 岐阜県感染症情報センター(岐阜県保健環境研究所)

- RSウイルス感染症は、第37週をピークに減少傾向にあります。
- 流行性角結膜炎は、散発的な患者報告が続いています。→トピックス
- 今週、大垣市内の小学校で、今シーズン県内で初めてインフルエンザによる学級閉鎖がありました。
- 定点把握対象疾患の発生動向(インフルエンザ定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所)
- 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

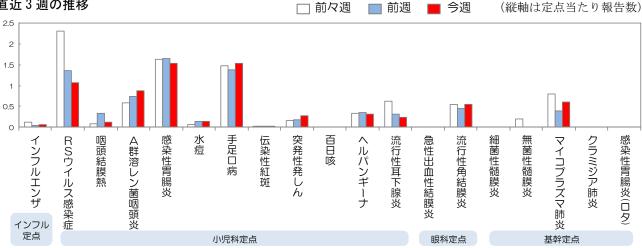
レベル	疾患名	基準	該当保健所(定点当たり報告数)
警報レベル	なし		_
注意報レベル	なし		_

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。 警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後4週間以内に 大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

注意したい感染症の保健所別流行状況(地図中の数値は定点当たり報告数)



直近3週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

1類感染症:なし 4類感染症:レジオネラ症1例

2類感染症:結核6例 5類感染症:アメーバ赤痢1例、梅毒2例

3類感染症:腸管出血性大腸菌感染症1例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。 感染症発生動向調査週報 (IDWR) https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html

■ トピックス

● 流行性角結膜炎

◇ 継続して患者が報告されています

県内の流行性角結膜炎の患者報告数は、昨年9~10月に大きな増加がみられました。今年は8月に患者の増加がみられており、9月以降は減少しているものの、現在も散発的な患者報告が続いています。

また、全国では春以降患者報告数の多い状態が続いており、県内の今後の動向にも注意が必要です。

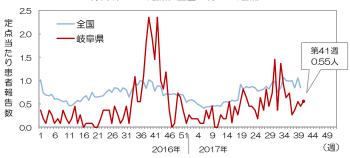
患者は幅広い年齢層でみられていますが、5 歳未満の小児と、成人では30歳代が多くなっています。 親と子の年代にあたり、家庭内での感染を反映している とも考えられます。

◇ 手洗いの励行などの予防を

感染経路はウイルスに汚染された物品を介した接触感 染で、主に患者の涙や目やにを拭いた手指やタオルなど から感染します。

予防には、手洗いが重要となります。また、目を拭く ときにはティッシュペーパーを使うなど、目を手で直接 触らないようにし、タオルの共用を避けるなどの注意が 必要です。

流行性角結膜炎患者報告数(岐阜県:11定点、全国:約700定点)





また、医療施設内で器具、点眼薬、医療従事者の手指などを介して感染することがあり、医療施設内での感染対策も重要とされています。

〇 流行性角結膜炎とは

アデノウイルス(主に8型、19型、37型など)によるウイルス性結膜炎です。8~14日の潜伏期の後、急に発症し、目やに、流涙、結膜の充血などの症状があらわれ、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがあります。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがあるので注意が必要とされています。

〇 感染症法における取扱い

流行性角結膜炎は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 700 か所(岐阜県 11 か所)の眼科定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。(保健医療課 HP)

http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html

岐阜県感染症情報センターHP

http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/